

第9回 新県民体育館整備等基本計画検討会 議事録

日 時：令和8年4月30日(木)14:30～16:30

場 所：高知城歴史博物館 1階ホール

出 席：委員11名中9名出席 ※中嶋アドバイザー、山花アドバイザー出席

出席委員：石塚委員、神谷委員、刈谷委員、寛藤委員、坂本委員、田中委員、
玉乃井委員、久川委員、森委員 ※北村委員、古谷委員が欠席

議 事：(1) 今後のスケジュール

(2) 基本計画(案)

そ の 他

1 開 会

<委員長挨拶>

・基本計画案の概要版と本編の説明があると思うが、早くパブリックコメントを行い、県民市民の皆様にご意見をいただきながら、県民の方が利用しやすく、満足いただけるようなものにできるだけ近づけていきたいと思う。今日はパブコメ前の最後の検討会になるので、皆様から率直なご意見をいただきたいと思う。

2 議 事

【議事(1)】

・特に意見、質問なし

【議事(2)】

<森委員>

・整備スケジュールのところで、どうしても県民体育館とプールには空白期間が発生してしまうという話だったが、集約化することとなったちばさんセンター大ホールと武道館について、集約化のスケジュールはどのようになるのか。

⇒県)現在の武道館とちばさんセンター大ホールは、新県民体育館ができるまでは、当然、通常の利用を続ける。いわゆる公適債を活用するに際しては、新しい施設ができてから5年以内に、除却もしくは転用や民間への売却ということになるため、施設が完成して5年の間にどうしていくかということ。

・事業手法の、従来方式とDB+Oについて、従来方式の方が、供用開始が最も早いと丸がついているが、設計と施工を分けて発注するため、それぞれの事業者と調整があるため、DB+Oの方が設計と施工をまとめて発注できるため早くなるのではないのか。

⇒中嶋アドバイザー)一般論でいうと、スピードを重視し、事業者にいかに設計施工を早くできるかを工夫してもらうために、DB方式を採用する場合も多々ある。今回につ

いては、物価上昇下にある中で民間事業者からDBが敬遠される可能性もあるので、サウンディングを通じて参入してくれる事業者がどれだけいるかということも踏まえ、従来方式の方がスムーズに入札が進められるということであれば、結果的に従来方式の方が運営開始時期が早くなる可能性もある。

⇒J V) 従来方式は基本設計、実施設計、工事施工とそれぞれに発注をしていくことになるが、DBの場合、それらを一体的に発注するため、途中の事務手続きは省略できる。ただ、DBの場合、設計施工や事業費について事業者から提案を受けるため、あらかじめ要件を設定するための要求水準書や審査項目という公募書類の作成に係る期間があらかじめ必要となるため、それを前段に当てはめていくと従来手法よりも若干期間が伸びてしまうため、このような評価をさせていただいた。

・どの方式を採用してもトータルコストは変わらないのか。

⇒J V) 事業手法のどれが良いかは、事業手法の定量的評価、定性的評価、総合評価の3つを掛け合わせて判断する。質問のあったトータルコストはこのうち、定量的評価に当てはまるが、事業費として県の財政負担がどれだけ軽くなるかを示すVFMを算出することとしている。次回の検討会で示すことになるが、一般的にはPFIやDBの方が財政負担は軽くなるが、それだけで評価するのではなく、今回示した県民へ早くサービスを提供できるといった定性的評価も重視して、総合的な評価をしていくことになる。

<坂本委員>

・昨今、施設を作った後に、例えば、当初稼働するようところが稼働しなかったや、木の老朽化が早かったなど、メンテナンスコストがかかるといったニュースが多い。基本計画の中で長寿命化の観点を盛り込むことは、今後、業者選定などで有益になるのではないかと思う。

・設計書を作成してみたが、価格が2倍、3倍ぐらいになる状況の中で、実際の施工段階で頓挫したようなケースもあり、従来方式だとそのようなリスクもあるかと思うので、事業が進められるオーバースペックにならない設計を基本計画に盛り込めば、もう少し前に話が進むかと思う。

⇒県) 実際、従来方式で他のアリーナで施工したときに完成間近に手戻りが発生したということも聞いている。資料3で、1番目のポイントに挙げているように、設計段階において、運営の目線が非常に大事だと考えており、どのように運営していくかを考えながら設計をすることで、一定手戻りは回避されていくと考えている。例えば、専門分野のアドバイザーに意見をいただくなどして、できるだけ運営目線を担保していきたいと思う。

<刈谷委員>

・競技団体としては、競技を運営するにあたって、運営目線が非常に重要である。例え

ばバスケットボールであれば、メインアリーナとサブアリーナを両方使う場合に、そのうち1コートが延長になった際、コートに入れ替えなどの調整をしていかななくてはならないというケースも出てくる。運営側としても、競技者としても、動線がしっかりスムーズに流れることが大事。次に武道館、コート3面だと県内の大会はできるかもしれないが、四国大会だと、どうしてもサブアリーナを使うような形になる。そうすると、武道館が練習場、サブアリーナが試合会場になる。そのときの選手の動線。この図面でいけば、武道館は2階になるため、サブアリーナが1階にあった場合、武道は素足のため、素足で試合会場まで行くための動線。また、試合場に来てけがをされることは運営側としても避けたいため、階段の幅などもしっかり配慮して、動線の確保や更衣室の位置などを考えていただきたい。

<寛藤委員>

・武道は素足でやるが、大体アリーナだとスリッパを履くため、それを利用者に準備させておくのか、施設の方が準備するのかといった細かい問題や、先ほどもあったが動線が最短でなければ厳しいと思う。例えば、柔道の場合、次の試合の選手をアナウンスをして、大会によっては短時間で試合会場に現れなかった場合、棄権もしくは失格という申し合わせ事項もあるため、動線が整理されていないと厳しいのではないかと思う。他の競技もそうだと思うが、武道館だけでやる場合はいいが、サブアリーナを使って行う場合は、多くが中学生や高校生の四国・全国大会ということで、まだ幼さが残っており自己管理ができない部分があるため、そういったところも考えていただけたらと思う。

<山花アドバイザー>

・今Bリーグチームは日本全国にあるが、B1、B2、B3という3つの階層に分かれている。現在、日本全国で5県を除く42都道府県でBリーグチームができています。その5県のうち1県が高知県ということ。

・徳島ガンバロウズはB3のカテゴリーに所属している。チームができて今シーズンが約3年目。今B3は15チームあり、この中でリーグ戦を行い、最後にプレーオフを行う。今年は徳島は2位で終わったが、残念ながらプレーオフ1回戦で先週負けてしまい、今年度のシーズンが終了した。あと四国だと、香川と愛媛にあるが、香川も同じくB3のカテゴリー。愛媛はB2というクラスで、今年は上位というようなチームになっている。

・来年からB改革があり、B1、B2、B3から、B.LEAGUEPREMIER、B.LEAGUEONE、B.LEAGUENEXTという階層に分かれる。これからは入れ替え戦が無くなる。どのように分けるかという、アリーナ、売上、平均入場者数、この3つにランクがあり、その該当するところに所属することになる。参戦しているチームは、B.LEAGUEPREMIERを目指すため、お金もかかるし、いろいろなチーム補強もあるが、一番難しいのがメインアリー

ナで、その条件が収容人数 5000 人以上。全チームそこを目指して建設などを行っているような状況になっている。

・徳島も今年 3 年目だが、まだアリーナはない。ようやく徳島でも基本計画の検討会が始まったところで、先週第 2 回が終わったが、チームの方からどういうアリーナを作りたいかという要望を上げた。高知県と同じように、ここから何ヶ月かかけて、どのようなアリーナを作っていくか検討が進んでいくようなことになりそう。徳島は工業高校の跡地に作ろうということで、縣市協調で進んでいるような状況。

・全国的にアリーナブームになっているが、バスケットのためだけのアリーナというわけではなく、やはり地域をいかに活性化するかということが一番。そのためにバスケットを使うということなので、バスケットありきのアリーナではなく、地元の皆さんがどういうふうに使って活性化して、若い人たちを地元にとどめるかということを考えて、そういう観点で作ってくださいという話をしている。その観点がないと、アリーナを作る意味もない。県民の皆さんがいかにアリーナを利用して、若い人たちがそこに共感して、残ってくれるかということが非常に重要なことになると思う。高知県の案を見ると、まさしくそういうことに沿って、アリーナ構想ができていますので、非常にうらやましいなという思い。

・B. LEAGUEPREMIER のためのアリーナとしては収容人数 5000 人が必須になる。そして諸室はたくさん必要になる。何に必要かということ、チームロッカーはもちろんだが、審判やテーブルオフィシャル、あとバスケットはエンターテインメントなため、演出効果としてレーザーや火を出したりすることから、徳島でもいつも 10 人程度の演出チームに外注している。その人たちの控え室、その他運営スタッフ、いわゆるチームのフロントで運営してる人も 10 ぐらいおり、その他ボランティアのアルバイトも 30 人から 40 人ぐらい毎試合手伝ってもらっている。その人たちの控え室やお弁当を食べる場所、それからチームの中にマスコットがいるため、少し隔離した専用の部屋も必要になり、その他医務室やシャワー室が必須になってくる。その数だけでもかなりの諸室が必要になってくるし、プロだけじゃなく、全国大会を誘致するとしても、それぐらいの数は必要になる。全国のいろいろなアリーナを見ているが、諸室が少ないところもあり、全国大会の場に使うときにはやはり不都合な点が出てくるので、基本計画に盛り込んでいくと良いと思う。

・それともう 1 つ B リーグのアリーナ要件として VIP ルームとスイートルームは必須。VIP ルームは全体の観客席数の 5 %、スイートルームは全体の 2 % 必要。これがないと、5000 人の収容人数があっても、B. LEAGUEPREMIER の基準に達していないことになる。これは VIP ルームを地元企業の人に買ってもらい、収益を上げるとともに、そこをビジネスに使ってもらい、お客さんに見に来てもらい商談するということが運営のためにも必要という B リーグの判断で、このような要件が盛り込まれている。1 万人程度の収容人数のあるアリーナは、VIP の人たちは別の動線が入ってきて、一般の人とは触れ合わな

いようなVIP感があるような施設になっている。

・ただ、高知県にはまだBリーグのチームがないため、当面は普通の設えでも良いと思うが、Bリーグのチームができた際には、改築できるような構造を基本計画で盛り込んでいただければ全然問題ない。音響や照明、映像、センタービジョンも必須になってくるが、それらもチームができた後で設置すれば良いので、最初はそれらを天井に吊せる設計ぐらいが良いと思う。後々そういったものに対応できるようにしておけば、非常に有意義なアリーナができると思う。

・それからトラックが中に直接入ってこられるような仕様にすることも必要。

・徳島でも体育館と図書館と市民センターが1つになった会場で試合をしたが、体育館は貸し切れたが、センターフロアは共同施設のため貸し切れなかった。そうなるとやはり有料で入場してくる人と、無料で施設を使う人の棲み分けが非常に難しい。新県民体育館も複合施設なので、武道の大会とBリーグの大会を同時にするといった場合に、どのように動線を分けるかということは非常に難しいので、そういうことを、今後の検討の中に盛り込んでいただけたらと思う。

・バスケットはホーム30試合ぐらいしかないので、年間の残りの日をどのように使っていくかということは非常に重要なカテゴリーになってくる。ただ実際にBリーグのチームができて、そこにアリーナがあって、そこに今まで見たことのないようなエンターテイメントができると、必ず人の流れは増える。徳島でもまだチームが出来て3年だが、毎試合1500人から2000人ぐらいが来てくれて、その人たちの声を聞くと、今までエンタメ的なことが、たまにコンサートで有名な歌手は来るけどそれぐらいで、それも距離が遠くて、あまり身近にはならない。ただ、バスケットはコートが近いので親近感があり、迫力もあることから、かなりの県民の皆様が支持をいただいている。このように、アリーナができて新しい人の流れができると、まちの活性化に必ず繋がると思うので、それも踏まえて今後、設計をしていただけると非常に良いアリーナができると思う。

⇒石塚委員長) Bリーグはホームアンドアウェイということだが、高知でBリーグの試合を誘致することは可能か。

⇒山花アドバイザー) 自分の県のチームを作らないと難しい。その他の卓球やハンドボール、バレーボールは誘致が可能だと思う。

<田中委員>

・今までおばさんセンターをイベントで使っていた中で、新県民体育館の方に機能はほぼ取り入れていただけているかと思う。

・運営に関わる予算が当然ある中で、そこに少しでも足し算ができる、例えば、企業広告であったり、それ以外のいわゆる、スポーツ興行だけに頼らないような運営の仕方について、皆さんからご意見をいただきながら、より良いものにしていくとよいと思う。

・その他、皇族対応が必要な国家事業などにも対応することも必要と思ったので、よ

りよい施設にするために、県民の皆さんに意見も聞きながら進めていければ良いと思う。

<玉乃井委員>

・当初から言わせてもらっているが、5000人キャパのコンサート会場ではステージセットを作ると3500人ぐらいしか収容できないので、コンサート呼ぶのはなかなか難しいと思う。先週末、香川のあなぶきアリーナでのコンサートでは、1日9000人動員しており、なかなか5500人の差の収益というのは大きく埋められないのではないのかと思うので、高知には大きな国際会議場のような全国大会ができる会場があまりなく、そういう意味では、MICE事業でこういうところは使えると良いのではないかなと思う。

<久川委員>

・コンサートをやることを前提にしたものを作るのではなくて、社会体育施設としてもしくはアリーナという箱としてきちんと施設ができているのであれば、例えばセンタービジョンを吊せる強度、トラックが入ることができる強度といった、基本的な設計の部分をきちんとしたものができていれば、我々はそれを形を変えて使っていく。例えば、センターステージであろうが、エンドステージであろうが、それはその時のコンサートもしくはイベントの形状に合わせる形でやっていく。ただ、例えば照明が吊せない、スピーカーが吊せない、耐荷重1トンまでとかなになると、全然話にならない状況になるため、一点一点の容量がきちんとあるといったところを考慮した上で、話を進めていければ、利用する人は、あるものを上手に使っていくことを考える。

・それよりも少し気になったのが、事業手法の部分。現実的に考えると、従来方式プラス指定管理自体のやり方なのかなと思う。ただ、いずれにしても、目安の予算を、県の方から提示する必要があるが、ここに今後の物価の上昇に合わせたスライドができるものなのかが少し不安。知り合いに話を聞くと現状、体育館で1㎡あたり100万円は余裕で超えているという状況なので、この90数万円というところでトータルの金額が出てくる状態で、今の段階でどこも手を挙げてくれない可能性。

・DBにしろ、PFIにしろ、大規模な事業なので興味は示してくれると思うが、実際計算をしてみると、無理ですと言われる可能性の方が、今は絶対的に高いのではないかなと思う。なので、ここはもう少し精査する必要があると思ったのが少し気になっている部分。

⇒県)基本計画ではこの試算した金額で作成させていただくが、実際に設計を発注する、施工を発注するといった際には、その時点で予算要求を行う。そうした場合には、結果的に事業費が膨らむということはあると思うので、その時の状況に合った予算をしっかりと確保し、競争がしっかりと生まれるように発注していきたいと思う。

<神谷委員>

- ・市民スポーツの観点からすると、本市から要望をしたプールが現有地で設置されることになったことは大変良かったと思う。
- ・教育的配慮の部分については、不登校の子どもたちの教育や、青少年の活動といった社会教育に対する配慮を記載いただいていること、加えて、それを今後どのように具体化していくかを本市の教育委員会と継続して協議していくということ、記載いただいていることを確認させていただいた。
- ・この教育的配慮については、今の段階で書けることを書いていただいていると思うが、実際に具体化していけばいくほど、いろいろな論点が出てくると思っている。例えば、本日動線の話が出てきたが、アリーナに来るお客さんの動線と、普段アスファルトで学んでいる子どもたちの動線をしっかり分けていただくということや、騒音で教育に影響が出ないようにすること、あるいはグラウンド全面供用の代わりに屋上の人工芝グラウンドを使用させていただく際、屋上に上がるまでの動線をどうするか、利用者とはバッティングしないかといった、いろいろな課題があると思っている。
- ・そうした部分について、まず、実施設計にどのように反映するか、また実際工事をするにあたっては、工事期間中の騒音やトラックの動線などにどのように対応していくのか。実際に供用が始まって以降は、運営の部分でどのようにクリアしていくのか等、それぞれの段階に応じて出てくる課題がそれぞれあると思う。その都度丁寧に協議をさせていただいて、取り組んでいきたいと考えているので、今後ともどうぞよろしくお願いしたい。

<石塚委員長>

- ・先ほどの渋滞のことや、今回は話がなかったが、敷地から出たところの道の幅の問題、あとそこから先の信号のことも含めて、周辺地域自体もやはり手をつけざるをえない状況にもおそらくなってくる。そうすると、地域住民の皆様にとりあえずそのあたりも想定して理解をいただくかが本当に重要になってくると思う。
- ・結局、住民生活に支障を来たすみたいなことが出てくる場合、街づくりと地域活性化というところを許容して、それでも地域としてはいいんだという合意が得られるのであればそれでいいが、ここがやはり実際に施工していくまでのところで、絶対に注意していかないといけないと思うのでよろしくお願いしたい。
- ・特に、教育的な配慮の通学路はしっかり対応していかないといけない。
- ・駐車場については、今回 250 台以上と書いてあるが、もちろんお金かければいくらでもできるという話ではあるが、建設費用のことを考えると、どれぐらいの幅を持たせるのかは少し気になったところ。当然お金も絡んでくる話なので、どんどんいける話でもないかなと。
- ・例えばプールを地下にする方が地熱が使えて光熱水費を補えるのではないかな。せっかく作るのであれば、環境負荷をできるだけ低減できるようなものにできると良い。

3 その他

<森委員>

・(ちばさんセンター大ホール廃止に伴う) 要請の2つ目の駐車場の十分確保ということで、周辺も含めてそろそろ台数を示していただかないと、後から台数を増やしてくださいということになった場合、対応が出来るのか。

⇒県) 令和6年度に調べた際には、今の県民体育館から徒歩15分圏内で、民間の有料駐車場が約350台あった。それでも、大規模イベント等で、臨時の駐車場が必要な場合等には、旧南中高のグラウンドなどを活用していく形にはなる。

現時点では多くの来場者の皆さんは、公共交通や徒歩でも来場できる圏内である。そうしたことから、250台以上と近隣駐車場で十分ではないかと想定をしているが、石塚委員長からもご指摘を受けたとおり、上限がどこまでかという部分は、次の設計の段階でもう少し探っていきたいと考えている。現状では、十分ではないかという想定でパブリックコメントは行わせていただくが、ご意見をいただいているので、次回、どこまで可能性があるのかというのは、ご報告をさせていただく。

<事務局>

・様々なご意見をいただきました。そして、委員長の方で取りまとめていただき、この基本計画案については確認をいただいたということで、まずはパブリックコメントに進めさせていただく。パブリックコメントの中で県民の皆さん、そして市民の皆さんからも、様々なご意見がいただけると思っているので、そうした部分を事務局の方でもしっかりと受けとめて、基本計画に反映させるべきところについてはまた次回の検討会で、皆さんに再度ご確認をいただきたい。どうか引き続きよろしくお願ひしたい。

4 閉会